

Cisco Unified Presence サービス拒否の脆弱性

High	アドバイザーID : cisco-sa-20091014-cup	CVE-2009-2874
	初公開日 : 2009-10-14 16:00	
	バージョン 1.0 : Final	
	CVSSスコア : 7.8	
	回避策 : Yes	
	Cisco バグ ID :	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Unified Presence は存在サービスに割り込みを引き起こすかもしれない 2 サービス拒否 (DoS) 脆弱性が含まれています。これらの脆弱性は Cisco によって内部で検出され、回避策がありません。

シスコはこれらの脆弱性に対処するソフトウェア アップデートを提供しています。

このアドバイザーは <http://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20091014-cup> で掲示されます。

該当製品

修正済みソフトウェア

以下の製品は影響を受けています:

- Cisco Unified Presence 1.x バージョン
- Cisco Unified Presence 6.x バージョン前の 6.0(6)
- Cisco Unified Presence 7.x バージョン前の 7.0(4)

Cisco Unified Presence を稼働するシステムの管理者は Cisco Unified Presence 管理インターフェイスのメイン ページの表示によってソフトウェア バージョンを判別できます。ソフトウェア バージョンは Command Line Interface (CLI) によってコマンド `show version` アクティブを実行することによって判別することができます。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

改訂履歴

リビジョン 1.0	2009-October-14	初版リリース
--------------	-----------------	--------

利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。